

鳥インフルエンザ緊急防疫対策会議

【内容】

- 1 鳥インフルエンザ未発生のための構造分析
- 2 今シーズンの発生状況・疫学情報等について
- 3 発生農場における防疫措置状況について
- 4 発生予防対策について

令和7年11月19日（水）
広島県農林水産局畜産課

1 「早期通報」

少しでも怪しいと思ったら迷わず通報する

2 農場の「再点検」

改めて、各農場で対策が不十分になっていないか点検

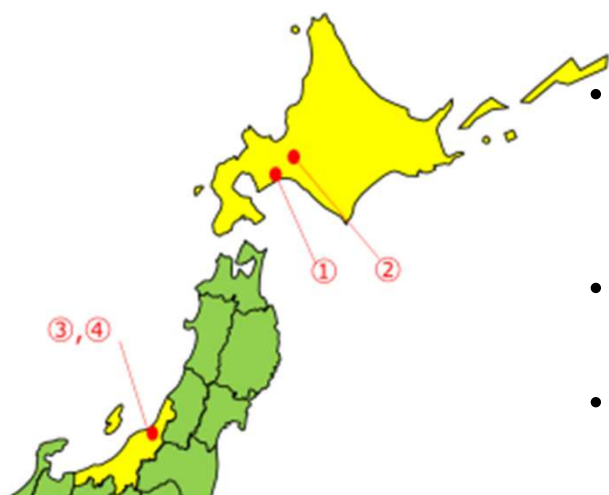
ex「水場が近く野鳥が飛来している地域」、「堆肥場に設置した防鳥ネットに穴が開いている、あるいは開放してしまっている」

3 「迅速な防疫措置」

発生を1か所で止めるため、迅速な殺処分や防疫措置の徹底

令和7年度シーズンの国内HPAI発生状況

	都道府県	発生日	発生規模	殺処分完了	防疫措置完了	再発	過去発生 シーズン
1例目	北海道 (白老町)	10月22日	約45.3万羽	10月28日	11月2日	○	R3
2例目	北海道 (恵庭市)	11月2日	約23.2万羽	11月7日	11月10日		
3例目	新潟県 (胎内市)	11月4日	約63万羽	11月15日	11月18日	○	R4
4例目	新潟県 (胎内市)	11月9日	約27.8万羽	11月15日	11月18日	○	R4、R6



- ・ 1 例目の白老町と 2 例目の恵庭市の距離は、約40km
(市町間に支笏湖)
- ・ 3 例目と 4 例目の農場の距離は、約500m
- ・ 野鳥では、1 道 7 県で33事例確認 (R7.11.18現在)

北海道白老町（国内 1 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る疫学調査チームの現地調査概要

※令和 3 年シーズン発生農場



1 農場周辺環境、農場概況

- (1) 農場北西側に隣接施設の調整池があるが、カモ類など水鳥類は認められなかった。南西に白老川とその河川敷樹林に 2 か所の池がある。樹林内の池にはマガモ 2 羽、コガモ約 50 羽が認められた。
- (2) 農場の南西にある森に向かって北東からカラスが約 20 羽飛来。カラスのねぐらがあることが推察。

2 通報までの経緯

発生鶏舎の通常死亡羽数は 0 ～ 1 羽程度のところ、通報時は、46 羽が鶏舎に散在して死亡。鶏舎内は長軸に沿って 3 区画に分かれており、入り口から見て手前と真ん中の区画で死亡が多い印象。

3 野鳥、野生動物対策

鶏糞を搬出するベルトコンベアの鶏舎外への開口部には野生動物侵入防止用の樹脂製のシャッターが設置されていたが、小型野生動物であれば侵入可能な隙間を確認。

鶏糞搬出口のある集糞ピットは鶏舎に隣接して設置されており、約 2 cm 角の防鳥ネットは設置されていたが、上部下部に若干の隙間があり、20羽以上のスズメの侵入を確認。

北海道恵庭市（国内2例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る疫学調査チームの現地調査概要

1 農場周辺環境、農場概況

- （1）農場北側から東側にかけて未舗装道路及び河川敷を挟んで千歳川に接し、調査時には野鳥は未確認であったが、通常はハクチョウ等野鳥が多数見られる。
- （2）農場敷地内南東端にあるため池は、1m間隔で縦横にテグスが張られており、調査時に野鳥は確認されなかったが、時々小型水きんが1羽程度見られる。

2 通報までの経緯

発生鶏舎の通常死亡羽数は17羽程度のところ、通報1日前に散在して24羽、通報時に北側のケージの中程からやや入口側によったあたりの最上段にまとまって死亡を確認。

3 飼養衛生管理

発生鶏舎は、入口側の妻及び平側から入気を行い、逆の妻側に設置されたファン（南東に面する）から排気する形式。

4 野鳥、野生動物対策

業者と契約しネズミ対策を行っているが、発生鶏舎裏口の集糞作業用準備室でネズミの糞を確認。調査時、農場内で多くの小鳥、カラスを確認。

新潟県胎内市（国内3例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る疫学調査チームの現地調査概要

※令和4年シーズン発生農場



1 農場周辺環境、農場概況

- (1) 農場周辺は、水田や林に囲まれ、西に250m離れたところに用水路が流れている。
- (2) 農場から東に約1km離れた水田ではハクチョウが複数羽飛来し、水田付近の用水路にはカモ類が飛来していた。

2 通報までの経緯

発生鶏舎の通常死亡羽数は13羽程度のところ、通報2日前に22羽、通報1日前に55羽が散在して死亡していたが、管理質疑を疑い経過観察とした。

通報時は、東から3列目の入口から最も奥の8段目ケージとその周辺でまとまって死亡。

3 飼養衛生管理

鶏舎の換気は、入口側の妻及び平側から入気し、入口と逆の妻側から排気する構造。入口側から中央付近までは、活性酸素系消毒薬により入気を消毒する構造。

4 野鳥、野生動物対策

この時期農場上空をカラスやハクチョウが飛来しているとのこと。

業者によるネズミ対策を実施していたが、発生鶏舎や隣の鶏舎でネズミの生体や死体が認められ、壁付近で糞を認めた。

新潟県胎内市（国内3例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場 派遣状況概要

※令和4年シーズン発生農場



1 農場の状況

鶏舎は7鶏舎。全て2階建てWL鶏舎。各階背中合わせの直列4段5列ケージ。

農場には塀があり、消毒ゲートも設置、整理整頓されていた。また、掃除は行き届いている印象。臭いも気にならなかった。しかし、作業中、ネズミがいることを確認した。

鳥の飛来防止のため、音が出る装置等を入口に設置。作業中に鳥は見なかった。

農場従業員の方が作業に入っており、農場専用長靴や衣服は使用されていたが、更衣等行う場所が入り口が1か所であった。

2 周辺の状況

農場周辺は道を挟んで木や草が生い茂っていた（野生動物が隠れられる環境あり）。日本海に近い場所に立地していた。

3 続発農場（4例目）

3例目の農場から約500m付近にある農場。令和4年、6年に発生した農場であった。

- 1 大規模農場で発生
(1 ～ 3 例目 : W L 、 4 例目 : S W L)
- 2 過去発生農場で発生 (1 、 3 、 4 例目)
- 3 野鳥、野生動物の確認

発生状況は、令和 4 年度や令和 6 年度シーズンと
同様の傾向

令和7年度鳥インフルエンザ発生予防対策（強化）

1 農場の管理体制の再点検

自農場の対策の不足部分の強化（人／野生動物／粉塵）

農場へのウイルスの侵入リスクに応じた衛生管理体制

年末年始等の休暇時期を見据えた人員配置

2 飼養衛生管理基準の遵守徹底

従業員全員の衛生意識の維持・向上・共有

繰り返し研修、衛生管理の相互チェック

野鳥・野生動物対策（餌場の除去、隙間・すみやかな修繕、作業時の侵入）

3 消毒計画の見直し及び確実な履行

適切な頻度及びタイミングの確認

履行状況の農場内共有

石灰や液体消毒薬の複合活用（入退場時、農場）